

研究
Keyword

日中比較文学、芥川龍之介研究

プロフィール

2004.09-2007.08 東南大学外国語学院 日本語言語文学専攻 修士取得

2015.04-2016.08 日本愛知工業大学 研究員兼中国語教師

2004.04-現在 東南大学外国語学院 講師

研究分野

日中比較文学、日本近代文学、日本語教育

所属学協会

中国日本語教育研究会

専門分野・研究分野

グローバル化視野での地域文学研究

文学テキストは時代を反映するとともにその時代に生きている人間（群像と個像）の行動や思想の記録でもあります。グローバル的視野で他国や異文化に関わる文学者及び彼らの手による文学テキストを研究対象とし、従来の文学研究に他者視点の読みを加え、研究内容の豊かさを求めようと思えます。グローバル化は現代の必然的な潮流となっています。文学自体は地域の紛争を解決する機能を持っていませんが、時代の呼吸に合わせて生きていた人生や風景、地域社会のリアルな姿や選択的な変化を追跡し、深く理解することで、現代の姿を捉えることができます。

研究内容

他者視点の日本文学解読

日中文化は昔から「一衣帯水」の相似性を持っていますが、言語や民族が違うため文化や社会の多方面に渡って異なる部分が見られます。異文化交流の中で外国人が他者の目で如何に自分の国の文化と社会を解釈するかを観察してみると、実に面白いです。グローバル化視野から谷崎潤一郎、芥川龍之介などを代表とする近代日本文人が書き記した江蘇の都市描写を解読することでその時代の中国江南地域の民俗と社会の実態を解明するとともに、中日社会の文化的差異、地域社会の変化を明らかにしようと思えます。このことは日中間における異文化相互理解を促進すると思われます。



シーズ・地域連携テーマ例

- 近代日本文人による「江蘇省描写」
- 近代日本文人筆下の「南京描写」

受賞

- 2014.06 東南大学 「許尚竜奨教金」受賞

論文

- 芥川龍之介研究—倫理的存在としての愚者の創造、愛知工業大学研究報告、第37号、2002.3
- 芥川の「阿呆」と親鸞の「愚禿」について、日本学論壇、2015.7

競争的資金等の研究課題

- 「芥川龍之介『支那遊記』における江蘇描写研究」、江蘇省社会科学基金、共同、2014-2016
- 「武内義雄の老子研究の翻訳と研究」、教育部人文社会基金、共同、2018-2020
- 「人口知能導入の日本語課程設計」、教育部産学合作協同育人項目、2022-2024



写真：笹川杯全国大学日本知識大会2023にて